

市民手作りによる大村智博士顕彰式が開催されました



8月5日、北里大学メディカルセンターの開院に尽力され、2015年のノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智博士の功績をたたえる顕彰式が、北里大学特別荣誉教授・大村智博士顕彰碑建立委員会(会長 山田憲次さん)の皆さんにより開催されました。

当日は上田清司知事、地元選出の衆院議員や県議などの来賓者を迎え、多くの市民とともにお祝いしました。

大村博士は「皆様のご好意に心から感謝します。碑文にあるような立派な人物になれるように、これからも努力していきたい」とあいさつされ、会場を沸かせました。

顕彰碑は、市民有志が寄付を集め、5千人以上の市民の寄付により作製されました。文化センター前に設置され、大村博士の上半身像や荣誉をたたえる碑文が刻まれています。



【顕彰碑建立委員会の皆さんのお話】

「ノーベル賞を受賞した大村智博士が寄稿している新聞を読んで、当時北本市への病院建設に大変苦労されたことを知り、形に残り、大村博士の功績を伝え続けていくことができるものとして、顕彰碑の建立を考えました。顕彰式当日は、大村博士を市民みんなで歓迎したいと思い、太鼓の演奏、子どもたちの合唱、津軽三味線の演奏を市民の方に披露してもらいました。大村博士は身を乗り出すようにして聴いてくださいました。除幕や久寿玉開披も、大村博士と大勢の市民が一緒に行い、総勢約350人の市民でお祝いしました。

大村博士の『碑文にあるような立派な人物になれるように…』というお言葉には、涙が出るくらい嬉しかったです。年間3億人余りの人々を救う奇跡の新薬(イベルメクチン)を開発し、無償提供し続ける大村博士と北本市がゆかりがあることは、市民にとって大変誇りであり宝です。

建立した顕彰碑によって大村博士の偉大な功績を広く市民の皆さんに知っていただき、後世にずっと伝え続けていってほしいと思います。

将来、北本市から大村博士のようにノーベル賞をとるような子どもが出てきてくれたら、とても嬉しいです。」と話されていました。



大村博士の功績を顕彰する建立委員会の活動に賛同された市民や地元および近隣の業者、本市の医師会の皆様のご支援とご協力によって立派な顕彰碑が完成し、本市にご寄贈をいただきました。建立委員会の皆さんには、心よりお礼を申し上げます。この活動を契機として、医療環境の充実等、住みよいまちづくりをさらに進めてまいります。